

新医学系指针对应「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力のお願ひ

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

化学療法がおよぼす妊孕性温存療法の現状調査の研究

1. 研究の対象および研究対象期間

2017年1月～2020年9月に当院で医学的適応卵子凍結もしくは胚凍結を行った方

2. 研究目的・方法

当院産婦人科では2016年よりがん患者に対して医学的適応妊孕性温存療法（卵子凍結または受精卵凍結）を行っております。がん治療のための化学療法（抗がん剤）は卵巣、卵子に影響を及ぼす可能性があるため、本来であれば化学療法開始前に卵子を採取することが望ましいですが、白血病や悪性リンパ腫などの血液のがんは診断後に早急に化学療法（抗がん剤）が必要となるため、治療開始前に卵子凍結をすることは現実的に困難であるのが現状です。

よって本研究では当院で医学的適応妊孕性温存療法を行った患者を対象に、抗がん剤投与が妊孕性温存療法へ与える影響について調査し今後の有用な妊孕性温存療法について検討するために本研究を計画しました。

研究期間

2020年 12月 1日～ 2025年 3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、妊娠出産歴、病歴、がんの種類、抗癌剤治療の治療歴、妊孕性温存療法期間中の注射投与期間、注射投与量など

試料：血液、採卵した卵子数、そのうちの成熟卵子数

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及

び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院（医学部産婦人科学講座） 氏名：秋野 亮介

住所：品川区旗の台 1-5-8 電話番号：03-3784-8551